

園芸タイムリー情報

《8月中・下旬版》

令和3年 8月17日発行 第7号
 上川農業改良普及センター
 Tel: 0166-84-2017 Fax: 0166-84-2009
 E-mail: asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage: http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm


全作物共通

- 天気は数日の周期で変わり、平均気温は高く、降水量は少ない状態が続く見込みです。
- ① 気温が高い時期のため、気象条件や生育に合わせた灌水や肥培管理を行い、養水分不足による生理障害を防ぎましょう。
 - ② 強風や大雨に備えて、防風網の点検、ハウスの修理や補強、排水溝の掘り下げなど防災環境を整えましょう。
 - ③ ハダニ、アブラムシ、アザミウマなどは寄生状況を確認し、適切な薬剤防除を行いましょう。
オオタバコガやヨトウガ幼虫の食害に注意しましょう。
 - ④ 余裕を持った作業計画を立て、健康状態を確認して作業を開始しましょう。
熱中症防止や疲労回復のため、定期的に休息を取り、水分だけでなく塩分補給も行いましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害 生理障害名	コナガ成虫	
コナガ		
発生状況		
多発生	コナガ幼虫	
発生時期	幼虫による葉の被害	
5月下旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。 ・比布町では7月の成虫の飛来数が平年よりやや多くなっている。 ・8月上旬は幼虫による被害が増加しており、今後も注意が必要。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内外の雑草をこまめに除草する。 ・防虫ネット（目合い1.0mm）を、侵入口となる隙間を作らないように設置する。 ・シアミド系（プレバソフフロアブル5等）への薬剤抵抗性個体群の出現があり、防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。 		
＜防除の一例＞		
<ul style="list-style-type: none"> ●プレオフロアブル（品目ごとに登録内容が異なるので注意） こまつな・みずな： 1,000倍 収穫前日まで 2回以内 チンゲンサイ・ターサイ： 1,000倍 収穫7日前まで 2回以内 		

作物名	あぶらな科野菜など葉菜類全般	
病虫害 生理障害名	ウスカワマイマイ	
ナメクジ類 カタツムリ類		
発生状況		
少～中発生	チャコウラナメクジ	
発生時期	4月中旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気が多い場所を好み、地中で越冬する。 ・葉の食害の他、本体やフンの混入が問題となっている。 ・雨天時や夜間は活発に活動する。 ・8月9日にまとまった降雨があったため、発生が増加している。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・常発ほ場では通気を良くして湿気を放出する。 ・ハウス内外をこまめに除草する。 ・スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。 		
＜防除の一例＞		
●スラゴ 1～5g/m ² (3.3～16.5g/坪) 発生時		


作物名	アスパラガス	
病虫害 生理障害名	ツマグロアオカスミカメ	
発生状況		
発生に注意		
発生時期	—	
写真左、中央：ツマグロアオカスミカメ 写真右：吸汁痕 (留萌農業改良普及センター写真提供)		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・5月下旬より1～2mmの幼虫が地際部付近に寄生し、アスパラガスの生長とともに穂の根元と柔らかい部分を吸汁し、直径1mm内外のへこみ、条状の裂けや褐変、曲がりとなる。 ・収穫後のほ場で増殖し、10月中旬まで被害が確認される。 ・茎葉に産卵される卵で越冬する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・越冬卵は8月中旬以降に産卵されるので、産卵を低減するため、8月以降に薬剤を散布する。 		
＜防除の一例＞		
<ul style="list-style-type: none"> ●アディオソ乳剤 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●ハチハチフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 2回以内 		

作物名	さやえんどう・さやいんげん	
病虫害 生理障害名	アザミウマ類	
発生状況		
少発生		
発生時期	7月下旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・莢に産卵すると火膨れ症状となり商品性が失われる。 ・高温乾燥条件で発生が多くなり、周辺雑草（特に黄色や白の花が咲くもの）が多いと被害は大きい。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場周辺の除草に努める。 ・アザミウマ類は花の中にいるので、花の中をよく観察し、発生が多くなってきたら、薬剤による防除を行う。 		
＜防除の一例＞		
<ul style="list-style-type: none"> ●ディアナSC 2,500～5,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫前日まで 2回以内 		

作物名	すいか・メロン・きゅうり	
病虫害生理障害名		
アブラムシ類		
発生状況		
少発生		
発生時期		
6月中旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。 ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> きゅうりでは葉裏の寄生により、葉表の褐変が見られるので、ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。 <p>＜防除の一例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ウララDF <ul style="list-style-type: none"> きゅうり 2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内 すいか・メロン 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●アディオン乳剤 <ul style="list-style-type: none"> きゅうり 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内 すいか・メロン 2,000～3,000倍 収穫前日まで 5回以内 		

作物名	すいか・メロン・きゅうり	
病虫害生理障害名		
ハダニ類		
発生状況		
少発生	きゅうり	すいか
発生時期		
6月上旬～	メロン	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。 高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。 ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤年1回の使用に止め、ローテーション防除を行う。 <p>＜防除の一例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ピラニカEW <ul style="list-style-type: none"> すいか・メロン：2,000～3,000倍 収穫3日前まで 1回 きゅうり：2,000～3,000倍 収穫前日まで 1回 ●カネマイトフロアブル <ul style="list-style-type: none"> すいか・メロン・きゅうり：1,000～1,500倍 収穫前日まで 1回 		

作物名	メロン・きゅうり	
病虫害生理障害名		
うどんこ病		
発生状況		
少～中発生		
発生時期		
7月上旬～	きゅうりの葉表に発生した白いかび	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 葉や茎の表面にうどん粉をふりかけたような白斑を生じ、多発生の時は果柄やへたなどにも発生し、商品価値が低下する。 例年、生育後半に発生が多くなるが、今年の乾燥条件により発生が早まった。 過繁茂になると発生しやすい。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ほ場を乾燥させすぎない。 被害葉や果実は摘除し、残さは適切にほ場外へ搬出する。 <p>＜防除の一例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ポリバリン水和剤 <ul style="list-style-type: none"> すいか：1,000～2,000倍 収穫前日まで 4回以内 メロン：1,500～2,000倍 収穫前日まで 5回以内 きゅうり：1,000～2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●ベルコート水和剤 <ul style="list-style-type: none"> すいか：1,000倍 収穫前日まで 4回以内 メロン：1,000倍 収穫前日まで 5回以内 きゅうり：2,000～4,000倍 収穫前日まで 7回以内 		


作物名	きゅうり	
病虫害生理障害名		
アザミウマ類		
発生状況		
発生に注意		
発生時期		
7月中旬～	写真：果実肩部分へのかすり状食害	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 花や葉に寄生する。 果実の肩部分にかすり状の食害痕が発生し、商品価値が低下する。 通常、大きな問題にはならないが、今年は高温が続いていることもあり、アザミウマ類の発生量が多く、被害の発生が見られる。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ほ場周辺の除草に努める。 アザミウマ類は花の中にいるので、花の中をよく観察する。また、葉に寄生している場合は、葉にかすり状の食害痕が見られるので、ほ場をよく観察し、発生の増加が見られたら、農薬による防除を行う。 <p>＜防除の一例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ハチハチ乳剤 1,000～2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●モスピラン顆粒水和剤 2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●ベネビアDO 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 		


作物名	パセリ													
病虫害生理障害名	かびに覆われた葉													
うどんこ病														
発生状況	少発生													
発生時期	8月上旬～													
発生の状況・要因														
<ul style="list-style-type: none"> 葉の表面が白色粉状のかびに覆われる。 ハウス内温度28℃前後で、乾燥した条件下で発生しやすい。 8月上旬に初発が確認されているため、今後も注意する。 														
対策														
<ul style="list-style-type: none"> ほ場を乾燥させすぎない。 発生前から予防的に薬剤散布を実施する。 発病した葉は摘み取り、ほ場外に持ち出して処分する。 <p><防除の一例> (発生前に7日～10日間隔で散布)</p> <table border="0"> <tr> <td>●クリーンカップ</td> <td>1,000～2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>●クムラス</td> <td>500～1,000倍</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>(発生初期)</p> <table border="0"> <tr> <td>●アフェットフロアブル</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>2回以内</td> </tr> </table>			●クリーンカップ	1,000～2,000倍	収穫前日まで	—	●クムラス	500～1,000倍	—	—	●アフェットフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内
●クリーンカップ	1,000～2,000倍	収穫前日まで	—											
●クムラス	500～1,000倍	—	—											
●アフェットフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内											

作物名	トマト類（大玉、ミニ）																
病虫害生理障害名	アザミウマ類																
発生状況	少発生																
発生時期	7月上旬～																
発生の状況・要因																	
<ul style="list-style-type: none"> 他作物で多発傾向にあり、ミニトマトでも金粉症状が見られている。 トマト、ミニトマトで果実への産卵で白ぶくれ症状を生じる。 ミニトマトではミカンキロアザミウマの食害で金粉症状を示す。 																	
対策																	
<ul style="list-style-type: none"> 葉の食害や開花中の花を観察し、発生初期に薬剤散布する。 <p><防除の一例> トマト・ミニトマト共通</p> <table border="0"> <tr> <td>●ディアナSC</td> <td>アザミウマ類</td> <td>2,500～5,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>●ウララDF</td> <td>ミカンキロアザミウマ</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> <tr> <td>●コテツフロアブル</td> <td>ミカンキロアザミウマ</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> </table> <p>※マルハナバチへの影響日数に注意</p>			●ディアナSC	アザミウマ類	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	●ウララDF	ミカンキロアザミウマ	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	●コテツフロアブル	ミカンキロアザミウマ	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
●ディアナSC	アザミウマ類	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内													
●ウララDF	ミカンキロアザミウマ	2,000倍	収穫前日まで	3回以内													
●コテツフロアブル	ミカンキロアザミウマ	2,000倍	収穫前日まで	3回以内													

作物名	トマト・ミニトマト																	
病虫害生理障害名	トマトサビダニ																	
発生状況	少発生																	
発生時期	8月上旬～																	
発生の状況・要因																		
<ul style="list-style-type: none"> 一部ほ場で発生が見られた。 初めはハウス内の一部の株の下葉で発生し、徐々に上位の茎葉や隣接する株に広がる。 茎がほこりを被って汚れたように褐変する。葉は先端から黄変し、やがて褐変し落葉する。果実はいくつかさび症状となる。 高温乾燥時に発生が増加する。 																		
対策																		
<ul style="list-style-type: none"> 高温期は増殖が早いので発生を見逃さずに薬剤防除を実施する。 <p><防除の一例></p> <table border="0"> <tr> <td>●アフーム乳剤</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>5回以内</td> </tr> <tr> <td>●コテツフロアブル</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> <tr> <td>●コロマイト乳剤</td> <td>1,500倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>●マイトコーネフロアブル</td> <td>1,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>1回</td> </tr> </table>			●アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで	5回以内	●コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	●コロマイト乳剤	1,500倍	収穫前日まで	2回以内	●マイトコーネフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	1回
●アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで	5回以内															
●コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内															
●コロマイト乳剤	1,500倍	収穫前日まで	2回以内															
●マイトコーネフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	1回															

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト													
病虫害生理障害名	うどんこ病													
発生状況	発生に注意													
発生時期	—													
発生の状況・要因														
<ul style="list-style-type: none"> 例年発生の見られる時期なので注意する。 葉の表面にうどんこを振りかけたようにかびが密生している。 発生が増加すると果柄・へたなどにも発生する。 20～25℃の乾燥条件で発生しやすい。 														
対策														
<ul style="list-style-type: none"> ほ場を乾燥させすぎない。 初発が確認されたほ場は早めに薬剤散布を実施する。 被害葉や果実は摘除し、残さはほ場外へ搬出する。 <p><防除の一例></p> <table border="0"> <tr> <td>●ダコニール1000</td> <td>1,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>●パンチョTF顆粒水溶剤</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>●ハーモメイト水溶剤</td> <td>800～1,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>トマト 4回以内、ミニトマト 2回以内</p>			●ダコニール1000	1,000倍	収穫前日まで	—	●パンチョTF顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	●ハーモメイト水溶剤	800～1,000倍	収穫前日まで	—
●ダコニール1000	1,000倍	収穫前日まで	—											
●パンチョTF顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内											
●ハーモメイト水溶剤	800～1,000倍	収穫前日まで	—											

作物名	ピーマン、ししとう、なんばん	
病虫害生理障害名		
ヨトウガ・オオタバコガ		
発生状況	多発生	
発生時期	オオタバコガ 若齢幼虫と葉の食害 (令和3年8月12日旭川市)	オオタバコガの幼虫 葉も食害するが果実に 食入する加害が多い
6月下旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> オオタバコガの孵化直後の幼虫が見られるほ場が増えている。 生長点からやや下の葉の上に虫糞が見られる場合が多いので注意して観察する。 ヨトウガの発生は減少しているが、秋期に2期目幼虫が発生するので注意する。 いずれも成長すると食害量が増え、薬剤も効きづらくなる。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 発生初期に登録のある薬剤で防除を行う。 <p><防除の一例> カブリダニ類導入時にも使用可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ブレバソフフロアブル5 ピーマン・ししとう・なんばん オオタバコガ 1,000～2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●ゼンターリ顆粒水和剤 ピーマン・ししとう・なんばん オオタバコガ 1,000倍 発生初期ただし収穫前日まで ー ●スピノエース顆粒水和剤 ピーマン オオタバコガ 2,500～5,000倍 収穫前日まで 2回以内 <p>カブリダニ類導入時には使用不可</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コテツフロアブル ピーマン・ししとう・なんばん オオタバコガ 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 		

作物名	ピーマン・ししとう・なんばん	
病虫害生理障害名		
ハダニ類		
発生状況	中発生	
発生時期	葉表の黄化症状 葉裏の黄化と褐変	
6月下旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 8月上旬から発生ほ場が増加しており、露地作物や雑草等で増殖したものが、ハウス内へ侵入していると考えられる。 葉表の黄変と葉裏の褐変症状が見られ、加害部位には微少なダニが見られる。 密度が増加してくると細かな糸で巣を作り、薬剤が直接かかりづらくなるため防除が困難となる。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 抵抗性が発達しやすいので各薬剤は年1回のみ使用が望ましい。 <p><防除の一例> カブリダニ類導入時にも使用可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ●サンクリスタル乳剤（天敵に影響あるが増殖後の使用が可能） ししとう、なんばん 300～600倍 収穫前日まで ー ●カネマイトフロアブル ピーマン 1,000倍 収穫前日まで 1回 ●マイトコーネフロアブル ピーマン 1,000倍 収穫前日まで 1回 <p>カブリダニ類導入時には使用不可</p> <ul style="list-style-type: none"> ●モベントフロアブル（遅効的なため多発時には他剤と併用する） 3作物共通 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 		

作物名	ピーマン	
病虫害生理障害名		
菌核病		
発生状況	発生に注意	
発生時期	茎葉での発生 発病部位から 上が萎れる	果実での発生 褐変し、水浸状 に腐敗する
ー		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 高温期には発生はほぼ見られないが、20℃以下の低温と多湿により発生が助長されるので、今後の気温の低下や降雨の増加により発生の可能性があるため注意する。 土壌中や被害残渣に形成された菌核が感染源となるので、春に発生の見られたほ場では予防的な対策が必要となる。 茎葉では発病部位から上が萎れて枯死、果実では軟化腐敗、幼果では落果が見られる。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 多湿が発生の原因となるので、ハウス内の換気に努める。 茎葉が繁茂している場合は、懐枝を適宜除去して株の内側の日当たりや通気性の改善に努める。 発生が見られる場合は、灰色かび病と合わせて薬剤防除を行う。 <p><防除の一例>菌核病の登録薬剤</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロプラール水和剤 1,000倍 収穫前日まで ※ ●ロプラールくん煙剤 100g/300～400㎡ (床150～200㎡×高さ2m) 収穫前日まで ※使用回数は水和剤とくん煙剤と合わせて4回以内 <p><防除の一例>灰色かび病の登録薬剤</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アフェットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●スミレックスくん煙顆粒 6g/100㎡ 収穫前日まで 5回以内 		

- ◆防虫ネット・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。
- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に、化学合成農薬の使用をできるだけ減らし、クリーンな野菜生産を実践しましょう。
気温が25～30℃以上となる高温時の散布作業は、作物に対する薬害の危険性が增大すること、散布者の健康被害が懸念されることからなるべく避けましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
※掲載されている農薬情報は、令和3年8月11日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□
【労働安全編】
—想定される事故への備え—

機械・装置の適切な使用

- ・機械類は使用前に説明書、注意書きをよく読んでから使用しましょう。
- ・安全装置が外されていないか、機能するか、定期的に点検しましょう。

事故発生時の対応の掲示

- ・想定される事故への対応手順や連絡網を定め、農場内に周知し、慌てずに対処できるようにしましょう。
- ・作業機の緊急停止装置等を明示し、事故発生時に即応できるように準備しましょう。

救急道具の準備

- ・応急手当のための救急箱や、傷口や目・口を洗い流すための衛生的な水を、いざという時にすぐ使える場所に用意し、作業員に周知しましょう。